

未来のために

「『税金』と聞いて何を思い浮かべますか」この質問を投げかけられた私は、漠然としたイメージしか思い浮かばなかった。身近にあるからこそ自分でわかっていると思っていたものが、こんなにも複雑で私たちを支えてくれているということに私は驚いた。

私たちは税金を払っている。それに対してマイナスなイメージを持つ人は多いだろう。その税金はどのように使われているのか、そして税金がなくなったら本当に私たちにとってプラスなことが多いのか、様々な意見を見聞きする度に私は疑問を抱いた。

そこで私は、まずどのようなところで税金が使われているのか調べてみた。もし税金がなくなってしまうたら…そこに書かれていたものはどれも私に衝撃を与えた。救急車やごみ収集、交番の有料化、医療費の金額自己負担など様々なサービスが私たちにとって身近ではなくなってしまうことを知った。これらのサービスは私たちにとってどれも必須なものだ。よって税金がなくなってしまうたら私たちの生活は円滑に回らなくなってしまうことを実感した。

これまで私は、税金は大人が当たり前のように払っているもので自分には関係ないと思っていた。しかし、調べてみることでそれが間違いであったことに気がついた。今はまだ直接税金を払う立場ではないけれど、学校で勉強ができることも、道路が整備されていて安全に登下校できることも、災害時に避難所が用意されることも、すべて税金によって支えられているのだ。私の生活も税金と深く関わっていた。

私は今まで「税金＝お金を取られるもの」という、プラスな一面を持つ反面このようなマイナスな印象も持っていた。しかし、それは一面にすぎない。むしろみんなが安心して暮らせる社会を保つために必要なお金なのだと思うようになった。誰かが困っている時に手を差し伸べるための仕組み、それが税金なのだと感じた。また、税金の使い道について正しく知ることとはとても大切だと感じた。ニュースやインターネットでは「税金の無駄遣い」といった言葉をよく見かけるが、そうした一部の情報だけで判断せず、私たち一人ひとりが税金に関心を持ち、どのように使われているのかを自分の目で確かめることが必要だと思う。税金の使い方について知ることができれば「もっとこうしてほしい」という意見を持ったり、将来の社会のあり方を自分なりに考えたりすることもできるはずだ。

将来、自分が納税者になる時のために今のうちから税金について学んでおくことは大切だと思う。税金がどのように社会を支えているのかを理解していれば、よりよく向き合えるだろう。私はこれからも税金について学び続け、「支え合うための仕組み」として前向きに捉えたい。そして自分が納める税金が未来へと繋がることを心から願っている。